

祝辞

マラヤ大学 モハマド・ハムディ 副総長補

シンポジウム「文明間対話——平和・共生・持続可能性」の開催へ、関係者のご努力は、まことに目覚ましいものでした。この新しい挑戦を、私は心から歓迎しております。また、マラヤ大学として、文明間対話センターを通しての、東洋哲学研究所ならびに日本・マレーシアの創価学会との共同作業を、うれしく思っております。

文明間の対話や宗教間の意見交換を重ねることによって、国際平和を推進する。この作業は、すべての公

的・私的な研究機関と宗教運動にとって核心的な重要性をもつ仕事であります。マレーシアの主要大学の一つとして、マラヤ大学は文明間対話センターを通して、国際平和に大きな役割を果たしてきました。1995年以降、この高貴な価値を推進し、人々の間に「すべての宗教への敬意と寛容の大切さ」を広め、そのために行動することを自ら担ってきたのです。96年には「イスラームと日本・西洋との文明間対話」を行いました。これらの一環として、法華経をベースにした創価学会

の仏教運動も、幾つかの異文化間プログラムに積極的に参加してこられました。

こうして、この集会が開かれたわけですが、折しも、現在、他者の信仰・文化背景への理解不足による不快な挑発と「表現の自由」の間で激しい論争が起こっております。

〈注：米国で作成された映画“*Innocence of Muslims*”（イノセンス・オブ・ムスリム）がイスラームと預言者ムハンマドを侮辱するものであるとして、イスラーム世界で大きな反発を呼んだ〉

私は真剣に願います。このシンポジウムが私たちに、宗教の真のメッセージとその人道的価値を浮かび上がらせてくれることを。来賓、登壇者、参加者の皆様、世界の様々な地域からの代表の皆様は、この目的に関して深い考察を示してくださいさることでしょう。シンポジウムの成功を心から念願いたします。

そして、各国の代表の方々が、この訪問を利用して、マレーシアを虚心坦懐に見ていただきたいと願っております。そうすればきっと、我が国ならではの文化・

宗教の多様さに瞳目されることでしょう。

皆様、マレーシアへ「スラマツ・ダタン
(Selamat Datang)」(ようこそ、いらっしゃいました)。

(Moid Hamdi Bin Abd Shukor
Acting Vice Chancellor of University Malaya)